

平成29年度第6回総合教育会議 会議録（要点筆記）

日時：平成30年3月20日（金） 午前10時00分～午前11時30分

場所：（水俣市役所）仮庁舎2階 第1会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長職務代理者	荒木 由紀子
教育委員	河田 奈保子
教育委員	山田 誠次
教育委員	堀 浄信

【市長部局：事務局出席者】

総務課長補佐	岩井 浩昭
総務課 行政係	赤司 和弘
総務課 行政係	山内 要

【教育委員会：事務局出席者】

教育次長	藪 隆司
教育総務課長	坂本 禎一
生涯学習課長	柿本 英行
指導主事	中田 慎哉
教育総務課 総務係	小路 幹雄
教育総務課 総務係	牧 千世

【傍聴者】1名

1 開会 （司会進行：総務課 行政係 赤司）

・市長あいさつ

本日は、平成29年度は第2回目となります第6回総合教育会議にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から教育委員の皆様には教育行政の推進にご尽力いただいていることに改めて感謝を申し上げます。

会議の時間も短時間ではありますが、実りある協議の場にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

2 議事 (市長招集のため、市長が議長となり進行)

(協議・調整)

市長：それでは、早速ですが今回のテーマは、平成27年度に策定しました「水俣市教育大綱」が平成29年度までの教育大綱となっております。

そこで平成30年度からの教育大綱について、議論していただきたいと思いますが、まずは、これまでの教育大綱に基づいた取り組み等について事務局から説明をお願いします。

(説明)

・水俣市教育大綱(対象期間：平成27年度～平成29年度)に係る主な事業

◆水俣市の教育 3つの決意

「1 水俣を担う熱意あふれる人材を育成します」

家庭や学校、地域とともに地域の資源や特色を活かしながら、活気ある水俣を創造していく熱意あふれる人材を育てていきます。

「2 知・徳・体を育む学校教育を推進します」

誰もが楽しく学ぶことができる学校づくりを推進し、一人ひとりを大切にしながら、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てていきます。

「3 水俣の力と誇りをはぐくむ社会教育を推進します」

心の豊かさを築く社会教育を推進し、水俣文化の創造やスポーツによる交流、一人ひとりの生きがいづくりを通して、市民の力と誇りを育てていきます。

※平成27年度から平成29年度に実施した事業を上記教育大綱の3つの決意の区分に振り分けた資料を使用し、「1 水俣を担う熱意あふれる人材を育成します」「2 知・徳・体を育む学校教育を推進します」に係るこれまでの取り組みの概要を坂本教育総務課長から説明。「3 水俣の力と誇りをはぐくむ社会教育を推進します」に係るこれまでの取り組みの概要を柿本生涯学習課長から説明。

市長：ただいまの事務局からの説明に対し、御質問・御意見はございませんか。

山田委員：生涯学習課の事業の説明の中の、武道館管理運営費で武道館の自家発電の設置というのがありますが、これはどういうことですか。

柿本生涯学習課長：武道館は避難所の指定を受けている施設になっておりますので、非常時の停電等に対応できるよう、これまでの調子が悪かった発電機を、新たな発電機に更新するものです。

市長：私からも、事務局に確認していいですか。生涯学習課の分になりますが、市民体育祭の開催経費が27年度は大きくなっているのは何故ですか。

柿本生涯学習課長：これは市民体育祭に幅広く色々な人に参加してもらいたいと、水俣芦北地域振興財団から3年間補助金をもらって、ニュースポーツ祭を開催しました。この市民体育祭のニュースポーツに使う道具の購入をしたため、26、27、28年度はたくさんの経費を要しております。

市長：市の競り舟大会用の新艇をFRP船でつくるとのことでしたが、現時点でその進捗状況はどうなっていますか。

柿本生涯学習課長：競り舟は12艇新造する予定で、現時点で10艇完成しています。来週にはあと2艇完成しますので、年度内には全艇納品頂く予定です。

市長：教育大綱に沿って、色々な事業が展開されています。そんな中で、推進していくもの、見直しが必要なものがあるかと思えます。そういったところを含めながら新たな教育大綱を策定していきたいと思えます。平成30年度からの4年間の教育大綱について、御意見はございませんか。

山田委員：水俣市の教育 3つの決意の2番「知・徳・体を育む学校教育を推進します」の説明文に「確かな学力・豊かな心・健やかな体」とありますが、「学力」というとテストの点数をイメージするため、そこで新学習指導要領の中の「資質と能力」という言葉に言い換えてもよいのではないかと思います。

市長：ただ今、山田委員から学力というひとつの括りではなく、もう少し幅を広げた「資質と能力」という言い方はどうかという意見がありましたが、他に意見ありませんか。教育大綱は基本理念でありますので、大きく変わることはないかと思えますが、今までの大綱をベースにした中で新しい展開ができないかと思えます。

荒木教育長職務代理者：学力という意味では一般的には知識や点数だとかにとらえてしまうかもしれませんが、ここに「確かな」という言葉がついているのは、学ぶ意欲とか、学ぼうとする力とか、問題解決していく等の広い意味の学力を指してるためです。文科省は「生きる力」と使用したりしますが、「生きる力」になると確かな学力・豊かな心・健やかな体全部を含んでいますし、先程出た「資質と能力」も心や体を含んでいるのかなと思われて、どの言葉を使えばいいかなと迷っているところです。

河田委員：私は大綱ですので、言葉に捉われるのであれば、枠囲みの中身をなくしてしまってもよいのではないかとおもいます。

堀委員：学力という言葉が先走っているという印象を受けるということですが、保護しないといけない子供たちとの関わりから言わせてもらうと、学校教育の中には人格の形成が一番で、安心・安全が整わない限りは、学力も深まらないだろうと思われれます。知・徳・体の順番もどうなのかなと思います。また枠囲いの内容に捉われすぎるのもどうなのか。難しいですね。

市長：ただ今、委員の皆さんからは、大綱の3つの決意の大きな括りだけで良いのではないかとというようなご意見と、他の人が見たときに、大きな括りだけみても十分に理解してもらえるのだろうかという心配もあって、ある程度具体的な文言を盛り込むべきではないかというご意見もあるようですね。

市長：私が1点挿入したらどうかと思っている文言は、「1水俣を担う熱意あふれる人材を育成します」の説明文の中に、「家庭や学校、地域とともに地域の資源や特色を活かしながら」という文言がありますが、子供たちのスポーツを通しての人間形成ができないかという思いがあったもので、選挙の公約にもあげていましたが、キッズサポーター制度というシステムを提案させていただきました。子供たちが一生懸命部活動をやっている中で、遠征であったり、大会であったり、色々保護者に負担をかけている面があるのかなと。全国大会・九州大会に行くときに物販をしながら、旅費等を捻出するなど保護者も苦勞しています。かといって、自分たちの目標に向かって頑張っている子供たちに参加をあきらめさせるのも酷なものがあります。地元企業に協力いただいて、そういった活動を支援する基金を立ち上げたいと考えています。既に、現時点で支援の声をいただいている企業さんがいくつかあります。更にこの制度はお金を集めるだけで終了するのではなく、子供たちがこういった地域の方々に支えてもらっているのか、その感謝の気持ちを表すために年に2回程度、交流会を実施し、子供たち、その保護者、支援いただいた企業の方と一緒に意見交換をする場を設けたいと思っています。子供たちの中にも地元企業への愛着が芽生えてくるのではないのでしょうか。地元に残って、自分を支えてくれた企業に就職したいとか、これまでお世話になった企業に就職して、次は自分たちの子供の世代を支えていきたいというような流れができてこないかと考えています。そこで、先程の文言で「家庭や学校、地域とともに地域の資源や特色を活かしながら」というフレーズの中に、「家庭や学校、地域や企業とともに」というような文言を加えられないかと考えています。

堀委員：子供の貧困の問題でいうと、社会との関係性の乏しさがあげられます。そういった意味でキッズサポーター制度のような考えで、企業に力を与えてもらうということは、とても大事だと思います。「地域と企業」という言い方は少し引っ掛かりを覚えるので、「地域社会」という言い方にするのもいいのではないかと思います。

荒木教育長職務代理者：地元の企業の力を借りたいということでしたら、この場合の地域というのは、地縁関係を示すものだと思いますので、企業という言葉を入れるのも良いと思います。地域社会も良いとは思いますが、どちらが良いか文言の整理が必要だと思います。キッズサポーター制度については、文化面で頑張っている子どももいますので対象とするのはスポーツのみなのか検討が必要です。福祉とのつながりによるサポートも含むのか、子ども（キッズ）を支える（サポート）として、どこまでしぼるのか、あるいは広げるのか今後考えていく必要があると思います。

山田委員：文言に関しては、「地域や企業とともに」でも良いとは思いますが、そのあとの文章も含めて文のつながりを見直したほうが良いと思います。またこの文の枠囲いの中身を無くす方法もあると思いますが、説明文が消えることになるので、事業ごとに大綱のどこに属しているかを示してもらうことは必要なのではないかと思います。市長の提案されたキッズサポーター制度は、今後民間企業と行政との協力関係が必要になってくる時代にあってはとても良いことだと思います。例えばキャリア教育でいうと、教育委員会と商工会議所が密に連携しあって子供たちの将来を考えていくということがあります。子供たちに水俣にもこんな企業があるということを知ってもらう良い機会だと思います。

河田委員：皆さん立場が違くと、色々な意見がでます。その様々な思いを反映するためにも、大綱は枠囲いの具体的な中身は削除して、色々なイメージに対応できるようにしたほうが良いのではないのでしょうか。またみなまた環境絵本大賞の取組は、水俣の特徴的な取り組みですが、今回予算が見直されると聞いています。例えば、この枠囲いを消すことによって、事業を幅広くとらえることが可能になり、他の分野と関連づけて予算をつけることができないかと思いました。

市長：企業という言葉を入れることによって、企業だけというイメージがつくのではないかのご意見がありました。企業という言葉を入れるか入れないかはともかくとして、私は企業が儲かればよいものではない、企業にも地域貢献や社会貢献が求められていると思います。企業の意識として地域・社会貢献しなければならないという一つの意識付けになれば良いと思っています。

山田委員：基本理念として「郷土の明日をつくる、心豊かな人づくり」があって、そのあとに「水俣市の教育 3つの決意」がありますが、すべて人材育成につながり、将来社会人となって生きていくということだと思います。学力という言葉は、学校の中だけのイメージがあります。2番目の決意は学校教育の推進をうたっていますが、育てていくのは良い生徒ではなく、将来を生きる人間を育てていくことだと考えれば、今後の社会を生きていくための力が必要となります。そのため、学力ということばは他の言葉がいいのではないかと思います。

河田委員：水俣市教育大綱は市長が、今後水俣市の教育をどんな風にしたいかという意思をもとに、協議して作成するものなので、枠囲いの中の文章を残すなら、市長の言われる「地域と企業」というような「企業」という言葉を入れるのも良いと思います。

堀委員：私も、特色を出して、物事に優先順位をつけることは大事だと思いますので、市長が「企業」という言葉を使用するのならば、それも良いと思います。

荒木教育長職務代理者：枠囲いの中身は、ある意味縛りになるという意見もあるので、削除するかどうかは市長の判断でよろしいと思います。

藪教育次長：これからの世の中は予測不能で、10年20年後、どんな世界になっているのか私達も創造できないような世の中を、今の子供たちは生き抜かなければなりません。そんな中、一番大事といわれる力は「学び続ける力」です。どんな時代であっても常に学んでいかないと時代についていけなくなると思われます。「確かな学力」に代わる言葉の一案として提案します。

市長：他に、現在の大綱のもとに教育を推進してきたけれども、もっとこうあればよかったとかいうご意見がありましたらお願いします。私はこの大綱はとても良く考えて作られているなと思っています。

河田委員：この大綱は、皆で一生懸命考えて作り上げたものです。大きく教育の在り方をとらえています。もう少し水俣らしい特徴をだしたらいいのではとも思いましたが、継続は力なりということを見るとこの内容でもう一期いくのも良いのではないかと思います。

市長：今回のご意見を踏まえながら、30年度の教育大綱を検討させていただきます。他何かご意見はありませんか。

堀委員：先日行われた「子ども・子育て会議」で出た意見になりますが、現在水俣は少子高齢化を迎え、人口2万5千人を下回る予想がでています。ただ水俣では、合計特殊出生率が全国1.38、県1.61に比べ、1.83と高めなのが喜ばしいことです。しかし、人口維持のためには2.08が必要です。また7か所水俣市内で学童保育が実施されていますが、不足している現状があり、受け入れを断られることもあるとのことでした。原因は何かとお尋ねしたところ、支援員の不足ということでした。雇用条件をあげても、なかなか応募がなく、厳しい状況です。シルバー世代の活用ということで、具体例としては佐敷小学校が、余裕教室等を使用して、でシルバー世代の方に来てもらって、子供たちを見守ってもらい、逆にシルバー世代は、子供たちから活

力をもらうような取り組みをしているそうです。水俣も参考にして、何か取り組みができないかと思います。また現在進められている小学校部活動の社会体育化についてですが、これまで実施主体が学校でしたが、保護者に代わることによって、放課後の子供の居場所がなくなるのではないかという不安があるとのことでした。そこで私が感じたのは、子育て世代への包括的な支援の必要性です。現在、いろんな個々の取組がなされていますが、点の活動で終わっている場合が多いように感じます。価値観や問題が多様化している現在においては、教育・福祉・経済・産業等の取組を横につなげて包括的に取り組むことが求められています。

今後は、教育大綱の理念のもとに、何か一つでも子供たちのためになることが実現できるよう総合教育会議の中でどんどん夢を語り合うことができたらと思いました。

山田委員：私も、縦割りの壁を越えて、一つの目的に向かってみんなが協力しあえるようにしていきたいという思いがあります。少子化や経済の停滞とか、どこの自治体でもあるかと思いますが、難しい課題を克服できたら水俣市の魅力になると思います。困難を乗り越えることで水俣市の財産にできるという気持ちを持って、力を合わせていければいいなと思います。

荒木教育長職務代理者：現在縦系は張られていても、横系が張られていない状況です。横系を張り巡らせて生地にする必要がありますね。

河田奈保子委員：教育は夢を語れるものであってほしいと思います。私は教育委員を務めて、子どもの教育が一番大事ということを感じました。ぜひ、色々な討議をしながら、水俣の子供たちが、水俣って好きだなあと思えるような水俣の教育を作りたいものです。

市長：行政は縦割りの意識が強いところです。学校教育は教育委員会が所管になっていますが、実際は福祉の分野や、経済分野等のいろんな分野が関連しています。横の連携について検討が必要なのかなと思います。子どもたちには夢や目標をもって学校生活あるいは社会生活を送ってほしいと思います。私は水泳というスポーツを通して色々勉強させていただきました。また良い指導者に会うことができました。学校でも良い指導者にめぐりあうことによって、子供たちは大きく成長すると思います。将来的に自分も指導者となって、子供たちに教えたいなというような状況につながればと思います。色々な意見をいただきながら、良いものを作ればと思いますので今後ともよろしくおねがいします。その他、事務局から何かありますか。

赤司主幹：先程、教育大綱について色々なご意見をいただきましたが、今後市長及び新教育長に相談しながら、固まった大綱案を、教育委員の皆様にお示しして決定させていただく流れでよろしいでしょうか。

各委員：はい。

市長：今日は私にとっての初めての総合教育会議でしたが、皆さんの色々なお考えを聞かせていただき、大変有意義なものとなりました。行政として私のカラーをだしていければと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。これで第6回目の総合教育会議を終了します。

3 その他（総務課 赤司主幹）

次回の開催時期につきましては、未定です。

開催にあたりましては、事前に、委員の皆様には通知させていただきます。

本日は長時間にわたり、大変お疲れさまでした。

4 閉会